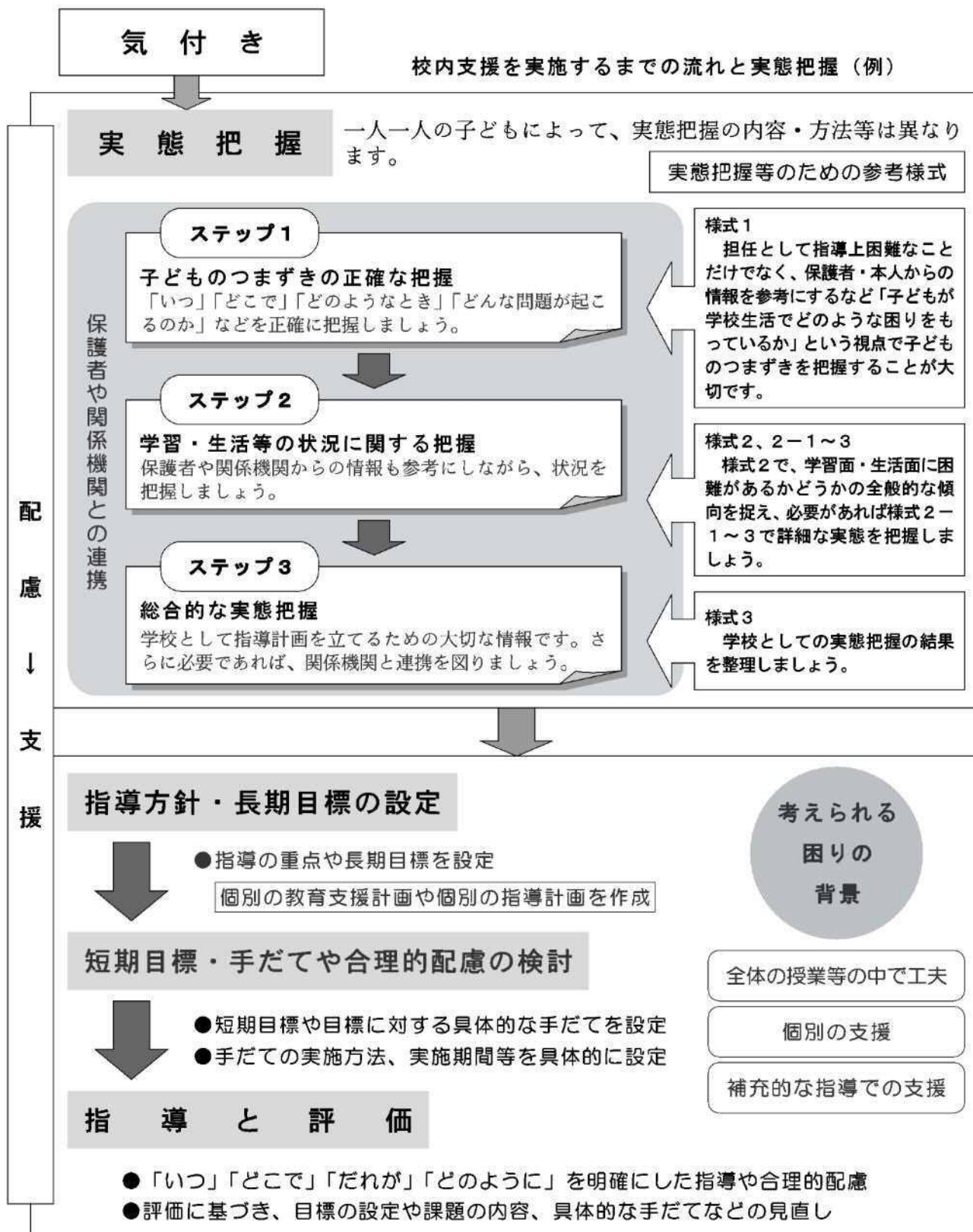


### Ⅲ 校内支援の実施

#### 1 校内支援を実施するまで





## 「子どもの困りと学校生活の指導にかかわる実態の把握」

校内学びの支援委員会

記入日 【平成 年 月 日】

氏名	ふりがな (男・女)	学年 組	年 組	担任	
----	---------------	---------	-----	----	--

I 担任として、子どもの「気になること・困ったこと」は何ですか。

【学習面】 ことばの理解や表現・計算や文章題の理解・学習スタイル・学力など

---



---



---

【生活・行動面】 人間関係・情緒面・身辺自立、運動など

---



---



---

II 子ども自身が学校生活で困っていると予想される場所はどこですか。

【学習面】 ことばの理解や表現・計算や文章題の理解など

---



---



---

【生活・行動面】 人間関係・情緒面・身辺自立、運動など

---



---



---

III その他、「気になること・困ったこと」がありましたら記述してください。

IV 指導に当たって留意している点や、保護者等からの要望などがありましたら記述してください。

実態把握シート 課題となる項目にチェックしてください。

観 点	
<b>&lt;知的発達&lt;の状況&gt;</b>	
知的発達の遅れは認められず、全体的には極端に学力が低いことはない	
<b>&lt;教科指導における気付き&gt;</b>	
本人の興味ある教科には熱心に参加するが、そうでない教科では退屈そうにみえる	
本人の興味ある特定分野の知識は大人顔負けのものがある	
自分の考えや気持ちを、発表や作文で表現することが苦手である	
こだわると本人が納得するまで時間をかけて作業等をすることがある	
教師の話や指示を聞いていないようにみえる	
学習のルールやその場面だけの約束ごとを理解できない	
一つのことに関心があると、他の事が目に入らないようにみえる	
場面や状況に関係ない発言をする	
質問の意図とずれている発表（発言）がある	
不注意による間違いをする	
必要な物をよくなくす	
<b>&lt;行動上の気付き&gt;</b>	
学級の児童生徒全体への一斉の指示だけでは行動に移せないことがある	
離席がある、椅子をガタガタさせる等落ち着きがないようにみえる	
順番を待つのが難しい	
授業中に友達の邪魔をすることがある	
他の児童生徒の発言や教師の話を遮るような発言がある	
体育や図画工作・美術等に関する技能が苦手である	
ルールのある競技やゲームは苦手のようにみえる	
集団活動やグループでの学習を逸脱することがある	
本人のこだわりのために、他の児童生徒の言動を許せないことがある	
係活動や当番活動は教師や友達に促されてから行うことが多い	
自分の持ち物等の整理整頓が難しく、机の周辺が散らかっている	
準備や後片付けに時間がかかり手際が悪い	
時間内で行動したり時間配分が適切にできない	
掃除の仕方、衣服の選択や着脱などの基本的な日常生活の技能を習得していない	
<b>&lt;コミュニケーションや言葉遣いにおける気付き&gt;</b>	
会話が一方通行であったり、応答にならないことが多い（自分から質問をしても、相手の回答を待たずに次の話題に行くことがある）	
丁寧すぎる言葉遣い（場に合わない、友達どうしても丁寧すぎる話し方）をする	
周囲に理解できないような言葉の使い方をする	
話し方に抑揚がなく、感情が伝わらないような話し方をする	
場面や相手の感情、状況を理解しないで話すことがある	
共感する動作（「うなづく」「身振り」「微笑む」等のジェスチャー）が少ない	
人に含みのある言葉や嫌味を言われても、気付かないことがある	
場や状況に関係なく、周囲の人が困惑するようなことを言うことがある	
誰かに何かを伝える目的がなくても、場面に関係なく声を出すことや独り言が多い	
<b>&lt;対人関係における気付き&gt;</b>	
友達より教師（大人）と関係をとることを好む	
友達との関係の作り方が下手である	
一人で遊ぶことや自分の興味で行動することがあるため、休み時間一緒に遊ぶ友達がいないようにみえる	
口ゲンカ等、友達とのトラブルが多い	
邪魔をする、相手をけなす等、友達から嫌われてしまうようなことをする	
自分の知識をひけらかすような言動がある	
自分が非難されると過剰に反応する	
いじめを受けやすい	

※様式 2、様式 2-1～3 は「本道の小・中学校等におけるLD・ADHD・高機能自閉症等を含む障害のある幼児児童生徒の教育支援体制のガイドブック」〈北海道教育委員会〉を参考に作成

## 学習面のチェックリスト

(0 : ない 1 : まれにある 2 : とときある 3 : よくある)

領域	項目	評価
聞く	聞き間違いがある(「知った」を「行った」と聞き間違える)	0, 1, 2, 3
	聞きもちがある	0, 1, 2, 3
	個別に言われると聞き取れるが、集団場面では難しい	0, 1, 2, 3
	指示の理解が難しい	0, 1, 2, 3
	話し合いが難しい(話し合いの流れが理解できず、ついていけない)	0, 1, 2, 3
話す	適切な速さで話すことが難しい(たどたどしく話す。とても早口である)	0, 1, 2, 3
	ことばにつまったりする	0, 1, 2, 3
	単語を羅列したり、短い文で内容的に乏しい話をする	0, 1, 2, 3
	思いつくままに話すなど、道筋の通った話をするのが難しい	0, 1, 2, 3
	内容を分かりやすく伝えることが難しい	0, 1, 2, 3
読む	初めて出てきた語や、普段あまり使わない語などを読み間違える	0, 1, 2, 3
	文中の語句や行を抜かしたり、または繰り返し読んだりする	0, 1, 2, 3
	音読が遅い	0, 1, 2, 3
	勝手読みがある(「いきました」を「いました」と読む)	0, 1, 2, 3
	文章の要点を正しく読みとることが難しい	0, 1, 2, 3
書く	読みにくい字を書く(字の形や大きさが整っていない、まっすぐに書けない)	0, 1, 2, 3
	独特の筆順で書く	0, 1, 2, 3
	漢字の細かい部分を書き間違える	0, 1, 2, 3
	句読点が抜けたり、正しく打つことができない	0, 1, 2, 3
	限られた量の作文や、決まったパターンの文章しか書かない	0, 1, 2, 3
計算する	学年相応の数の意味や表し方についての理解が難しい(三千四十七を300047や347と書く。分母の大きい方が分数の値として大きいと思っている)	0, 1, 2, 3
	簡単な計算が暗算でできない	0, 1, 2, 3
	計算をするのにとても時間がかかる	0, 1, 2, 3
	答えを得るのにいくつかの手続きを要する問題を解くのが難しい(四則混合の計算。2つの立式を必要とする計算)	0, 1, 2, 3
	学年相応の文章題を解くのが難しい	0, 1, 2, 3
推論する	学年相応の量を比較することや、量を表す単位を理解することが難しい(長さやかさの比較。「15cmは150mm」ということ)	0, 1, 2, 3
	学年相応の図形を描くことが難しい(丸やひし形などの図形の模写。見取り図や展開図)	0, 1, 2, 3
	事物の因果関係を理解することが難しい	0, 1, 2, 3
	目的に沿って行動を計画し、必要に応じてそれを修正することが難しい	0, 1, 2, 3
	早合点や、飛躍した考えをする	0, 1, 2, 3

〈評価規準〉

- ・「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」の6つの領域(各5つの設問)の内、少なくともひとつの領域で該当する項目の12ポイント以上であれば、学習面に困難が疑われる。

### 行動面のチェックリスト

(0：ない、もしくはほとんどない 1：ときどきある 2：しばしばある 3：非常にしばしばある)

領 域	項 目	評 価
不注意	学校での勉強で、細かいところまで注意を払わなかったり、不注意な間違いをしたりする	0, 1, 2, 3
	課題や遊びの活動で注意を集中し続けることが難しい	0, 1, 2, 3
	面と向かって話しかけられているのに、聞いていないようにみえる	0, 1, 2, 3
	指示に従えず、また仕事を最後までやり遂げない	0, 1, 2, 3
	学習課題や活動を順序立てて行うことが難しい	0, 1, 2, 3
	集中して努力を続けなければならない課題（学校の勉強や宿題など）を避ける	0, 1, 2, 3
	学習課題や活動に必要な物をなくしてしまう	0, 1, 2, 3
	気が散りやすい	0, 1, 2, 3
	日々の活動で忘れっぽい	0, 1, 2, 3
多動性   衝動性	手足をそわそわ動かしたり、着席していても、もじもじしたりする	0, 1, 2, 3
	授業中や座っているべき時に席を離れてしまう	0, 1, 2, 3
	きちんとしていなければならない時に、過度に走り回ったりよじ登ったりする	0, 1, 2, 3
	遊びや余暇活動におとなしく参加することが難しい	0, 1, 2, 3
	じっとしていない。または何かに駆り立てられるように活動する	0, 1, 2, 3
	過度にしゃべる	0, 1, 2, 3
	質問が終わらない内に出し抜けに答えてしまう	0, 1, 2, 3
	順番を待つのが難しい	0, 1, 2, 3
	他の人がしていることをさえぎったり、じゃましたりする	0, 1, 2, 3

〈評価規準〉

- ・「不注意」の設問群または、「多動性—衝動性」の設問群の内、少なくとも一つの群で該当する項目が6ポイント以上であれば、行動性の困難（「不注意」「多動性」「衝動性」）が疑われる。  
ただし、回答の0、1点を0点に、2、3点を1点にして計算。



## 対人関係等のチェックリスト

(0 : いいえ 1 : 多少 2 : はい)

項 目	評 価
大人びている。ませている	0, 1, 2
みんなから、「〇〇博士」「〇〇教授」と思われている (例：カレンダー博士)	0, 1, 2
他の子どもは興味をもたないようなことに興味があり、「自分だけの知識世界」をもっている	0, 1, 2
特定の分野の知識を蓄えているが、丸暗記であり、意味をきちんとは理解していない	0, 1, 2
含みのある言葉や嫌みを言われても分からず、言葉通りに受けとめてしまうことがある	0, 1, 2
会話の仕方が形式的であり、抑揚なく話したり、間合いが取れなかったりすることがある	0, 1, 2
言葉を組み合わせて、自分だけにしか分からないような造語を作る	0, 1, 2
独特な声で話すことがある	0, 1, 2
誰かに何かを伝える目的がなくても、場面に関係なく声を出す (例：唇を鳴らす、咳払い、喉を鳴らす、叫ぶ)	0, 1, 2
とても得意なことがある一方で、極端に不得手なものがある	0, 1, 2
いろいろな事話す、その時の場面や相手の感情や立場を理解しない	0, 1, 2
共感性が乏しい	0, 1, 2
周りの人が困惑するようなことも、配慮しないで言う	0, 1, 2
独特な目つきをすることがある	0, 1, 2
友達と仲良くしたいという気持ちはあるけれど、友達関係をうまく築けない	0, 1, 2
友達のそばにはいるが、一人で遊んでいる	0, 1, 2
仲の良い友人がいない	0, 1, 2
常識が乏しい	0, 1, 2
球技やゲームをする時、仲間と協力することに考えが及ばない	0, 1, 2
動作やジェスチャーが不器用で、ぎこちないことがある	0, 1, 2
意図的でなく、顔や体を動かすことがある	0, 1, 2
ある行動や考えに強くこだわることによって、簡単な日常の活動ができなくなることがある	0, 1, 2
自分なりの独特な日課や手順があり、変更や変化を嫌がる	0, 1, 2
特定の物に執着がある	0, 1, 2
他の子どもたちから、いじめられることがある	0, 1, 2
独特な表情をしていることがある	0, 1, 2
独特な姿勢をしていることがある	0, 1, 2

〈評価規準〉

- ・該当する項目が22ポイント以上であれば、対人関係上等の困難が疑われる。

**実 態 把 握 シ ー ト** **校内学びの支援委員会**

氏名 (男・女)	学年 組	年 組	担任	
-------------	---------	-----	----	--

1 指導上課題とされる点→ 関係機関に教育相談（教育的判断の依頼）をする理由)

**A 学習の状況**

学力検査の結果 <検査名> H 年 月実施

	国 語		算数（数学）		総 合
	領域名	得点	領域名	得点	
領域					総合得点 ss 点 学力段階 段階
総合					

**学習の状況**

国 語

算数（数学）

その他の教科

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

**心理検査の結果**

I Q

検査名 \_\_\_\_\_ 年 月実施

**B 学校生活の状況**(学校における実態把握のための観点の項目で顕著なものについて記入)

○学習態度の状況

○行動の自己調整や  
対人関係面の問題

関係機関との教育相談（教育的判断の依頼）をするに当たっての保護者の意見、了解の有無

（ 有 ・ 無 ）